

藤沢市教育委員会 7 月定例会会議録

日 時 2015 年（平成 27 年）7 月 29 日（水）
午後 2 時
場 所 市民会館 1 階 第 2 展示集会ホール

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の決定
- 3 前回会議録の確認
- 4 議 事
 - (1) 議案第 1 2 号 平成 28 年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採択について
 - (2) 議案第 1 3 号 平成 28 年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の採択について
 - (3) 議案第 1 4 号 平成 28 年度使用藤沢市立小学校用教科用図書の採択について
- 5 閉 会

出席委員

1 番 吉 田 早 苗
2 番 小 竹 伊津子
3 番 阪 井 祐 基 子
4 番 関 野 真 一 郎
5 番 井 上 公 基

出席事務局職員

教育次長	小 林 誠 二	教育部長	吉 住 潤
教育部参事	神 尾 友 美	教育部参事	小 木 曾 貴 洋
教育部参事	村 上 孝 行	教育部参事	神 尾 哲
学校教育企画課長	齋 藤 直 昭	学校施設課長	佐 藤 謙 一
教育総務課主幹	佐 藤 繁	教育指導課主幹	松 原 保
学校教育企画課指導主事	繁 里 洋 子	学校教育企画課指導主事	丸 谷 英 之
教育指導課指導主事	窪 島 義 浩	教育指導課指導主事	亀 本 淳 夫
教育指導課指導主事	佐々木 貴	教育指導課指導主事	北 野 博 三
教育指導課指導主事	宮 崎 洋 子	教育指導課指導主事	町 田 一 郎
教育指導課指導主事	瀧 谷 典 子	教育指導課指導主事	坪 谷 麻 貴
教育指導課指導主事	菅 野 尚 子	教育指導課指導主事	山 田 大
教育指導課指導主事	近 藤 千 鶴		
書 記	西 山 勝 弘		

午後2時05分 開会

関野委員長

ただいまから藤沢市教育委員会7月定例会を開会いたします。

会議の開催にあたり、藤沢市教育委員会傍聴規則第6条第4項にあります写真撮影、録画、録音につきまして、報道機関から事前に申請がありましたので、これを許可することといたします。

傍聴人におかれましては、傍聴券の裏面に記載している遵守事項、「(1)飲食し、又は喫煙しないこと。(2)議事に対し、批評を加え、又は可否を表明しないこと。(3)みだりに傍聴席を離れないこと。(4)写真、ビデオ等を撮影し、又は録音しないこと。(5)会議場の秩序を乱し、又は会議の妨害となる行為をしないこと。」を守っていただき、円滑な議事進行のため、ご静粛にしてくださいませよう、よろしくお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

関野委員長

それでは、会議録署名委員を決定いたします。

本日の会議録に署名する委員は、2番・小竹委員、3番・阪井委員にお願いしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、本日の会議録に署名する委員は、2番・小竹委員、3番・阪井委員にお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

関野委員長

続きまして、前回会議録の確認をいたします。

何かありますか。

特にないようですので、このとおりの承することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

関野委員長

それでは、このとおりの承することといたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

関野委員長

これより、議事に入ります。

議案第12号 平成28年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採択についてを上程いたします。事務局の説明をお願いいたします。

小木曾教育部参事

議案第12号 平成28年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採択について、ご説明いたします。

この議案を提出いたしましたのは、中学校用教科用図書の採択につきましては、法令により義務教育教科用図書は、基本的には採択替えを行った時点より、4年間は同じ発行者のものを採択することになっています。中学校の教科用図書につきましては、平成27年度が採択替えの年度に当たっておりますので、採択替えを行うものです。

平成 28 年度使用藤沢市教科用図書の採択方針に基づき採択する教科用図書につきましては、採択日程に沿って展示の実施、各中学校長による調査・研究、審議委員及び調査員の委嘱又は任命、教育委員長による審議委員長への諮問を経て、第 2 回藤沢市教科用図書採択審議委員会におきまして、中学校用教科用図書の審議を行い、その会議録をもって答申とすることが承認されております。なお、7 月 22 日に藤沢市教科用図書採択審議委員会委員長から教育委員会委員長あて、平成 28 年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果について答申されました。教科用図書審議委員会から答申された内容については、平成 28 年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果について（答申）とあるものです。

それでは、議案書を読み上げます。（議案書朗読）

関野委員長

事務局の説明が終わりました。平成 28 年度使用中学校用教科用図書の採択につきましては、法令により義務教育教科用図書は、基本的には採択替えを行った時点より、4 年間は同じ発行者のものを採択することになっています。中学校の教科用図書の採択につきましては、本年度は平成 28 年度から中学校において使用される教科用図書について、教科書目録の中から 1 種目ごと 1 発行業者のものを協議の上、採択することとなります。藤沢市教科用図書採択審議委員会からも、1 種目ごと 1 発行業者のものを審議した結果が答申されています。

それでは、これから平成 28 年度使用中学校用教科用図書の協議をしてまいります。協議に入ります前に、私たち教育委員が採択に当たり、調査研究をするのに参考とした資料をご説明いたします。

はじめに、「中学校学習指導要領」です。これは文部科学省が作成し、学校の教育課程を編成する上で、また、教科書編集の根幹に当たる資料です。

次に、「教科書編修趣意書」です。これは文部科学省が教科書発行者に作成を指示したもので、各種目の教科書を編修するに当たっての趣意をまとめたものです。

次に、県より報告されました「中学校、中等教育学校の前期課程用教科用図書調査研究の結果」です。これは県の教科書選定審議委員会のもとに置かれた専門調査委員会が調査研究した結果で、教科書選定審議委員会を経まして、県教育委員会から本市教育委員会へと送付されたものです。

次に、本市教科用図書採択審議委員会のもとに置かれた調査員によって作成された「中学校用（平成 28・29・30・31 年度用）調査資料」です。これは県の通知及び審議委員会の方針を受けまして、学校教育に十分な経験と知識を有する者のうちから、教育長が調査員として各種目 3～5 名を

任命し、調査研究をした結果をまとめたものです。

次に、「平成 28 年度使用教科用図書調査書」です。これは各中学校長が自校の教師に調査研究させたもので、各中学校長の責任のもと、県の調査研究の観点に沿って、9～10 項目の観点ごとに調査研究したものです。

次に、「平成 28 年度使用教科用図書意見書」です。これは保護者及び市民向けに、各中学校及び藤沢郵便局において、教科書展示会を開催した際にいただいたご意見、ご感想です。

また、要望書についても委員それぞれが目を通しております。

私たち教育委員は、教科書見本の内容を研究するとともに、ただいま説明いたしました資料の研究、藤沢市教科用図書採択審議委員会を傍聴し、同委員会の答申を参考に調査研究をすすめてまいりました。参考とした資料及び内容は以上でございます。

それでは、協議に入ります。協議方法について、私から提案させていただきます。協議方法については、私たちが調査・研究する際に使用した資料の中の、県教育委員会から報告された「中学校、中等教育学校の前期課程用 教科用図書調査研究の結果」の 5 観点、中学校長による「平成 28 年度使用教科用図書調査書」の 9～10 観点、市の調査員がまとめた「中学校用（平成 28・29・30・31 年度用）調査資料」の 3 観点、を参考にし、加えて、藤沢市教科用図書採択審議委員会の答申で審議された観点別のご意見を踏まえ、この場では 4 つの観点、1. 学習指導要領との関連（編集の趣旨と工夫）、2. 内容（教科・種目別の観点）、3. 構成・分量・装丁、表記・表現、4. 本市の生徒の実態や地域等の特性との関連、を軸として、それぞれの観点について協議し、種目ごとに意見を出し合い、最終的に合議により決定するというものでいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、そのように進めさせていただきます。

×××

関野委員長

はじめに、国語から協議を始めます。発行業者は 5 者、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版です。ご意見をお願いいたします。

阪井委員

国語科については、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことの各領域において言語活動を通して指導すること、伝統的な言語文化を国語の特性に関する事項として、読書の充実、漢字の指導などを目標として教科が行われております。まず、私は 2 者についてお話したいと思います。今、使われている三省堂ですけれども、今回の三省堂の本には「学びの道しるべ」から「学びをひろげよう」で、段階的に読解力を身につける学習を振り返るような工夫がありました。また、「読み方を学ぼう」と連動して、系統

的に学んでいけるようなつくりになっていたように思われます。

光村図書出版の教科書については、「学習の見通しをもとう」で、教材の学習の目標が明示されていて、終わりには「次へつなげよう」があり、何を学習するのかが明確になっておりました。また、教材ごとに、同じ作者のテーマを持つ本を紹介する「広がる読書」というコーナーもありました。「読書コラム」も著名人によるメッセージがあり、読書の興味を持たせる、そのように感じました。「本の世界を広げよう」という読書案内ページでは、学年ごとにテーマやジャンルが分けられる工夫もあり、1年生では「私が選んだこの1冊」、2年生では「2年1組のお勧め35冊」、3年生では「未来の私にお勧めの本」とし、子どもの成長に合わせた読書活動が進められるような工夫がされていました。光村図書出版がよいと思いました。

小竹委員

私も三省堂と光村図書出版についてですけれども、光村図書出版がよろしかったと思います。辞典と辞書、インターネット、図書館での調べ方が初めに解説してありまして、物語、古文、小説などの構成バランスもよく、読み物の量も適当であり、多くの生徒が読みこなせる量と思いました。巻末に文法や漢字が示されております。「学習の窓」という目標が設定されており、漢字の確認もできる設問など、自習や自宅学習に使える要素があると思います、光村図書出版がよろしいと思いました。図書の紹介も豊富です。より読書に取り組みたいお子さんへのよい手助けになるとと思います。全体のレイアウト、文字の大きさ、印刷も見やすかったと思います。

吉田委員

国語に入る前に、今回の中学校の教科書採択に関して私の観点をつけ加えさせていただきたいと思います。現行の学習指導要領ですけれども、生徒に生きる力を育むことを目指しておりまして、そのためには基礎的、基本的な技能を取得させて、これらを活用して課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を活かす教育を充実するよう努めなければならないとされています。それらの点を踏まえて今回、私は、先ほど委員長が申し述べた4観点に加えて、次の3点で教科書を見ていきたいと考えて、教科書を見てまいりました。

1点目は、特に3点目のところにございました構成についてです。中学校での学習というのは、義務教育としての学びのまとめであると私は考えております。したがって、3年間の学びの先に1人の人間として、これから先もみずから学んでいく、生きる力を育むことが大切であると考えます。生徒にとっては教科書を学ぶことにより、学び方が学べる教科書を、教師にとって学ばせやすい構成になっている教科書を選びたいと考えます。

2点目は、生徒みずからの思考、判断を支えるために多面的、多角的な考え方や多様な学びにつながるような内容であるかどうかという点。

3点目は、生徒がみずから学びたくなるような題材が見つかり、そのことを題材として、あるいは課題としてみずから調べたり、体験したりして学んでいくことができる課題学習の視点についてです。

そういった点を踏まえて、まず国語科ですけれども、国語については日本語を学び、伝え合う力を磨いて、読書等で想像力を育むことを大切にしたいと考えます。まず、構成の面からですけれども、領域別学習教材に関しての一覧表が載っていて、学習の目標が明示されており、学び方が学べるという点で東京書籍、三省堂、光村図書出版がよいと思います。東京書籍では1年間で学ぶことが双六のように視野に入って、目標に達するためにどのように学ばよいか、繰り返しの学びにより学び方が明確に示されていると感じました。

三省堂も「つきたい力を確かめよう」があり、子ども目線での言葉で見やすい、特に読むことについて「学びの道しるべ」を通して、さまざまな言語活動に取り組み、繰り返すことにより段階的に必要な力が養えると思います。また、「読み方を学ぼう」は、話す、聞く、書くについては実践に役立つと考えます。光村図書出版についても「学習の見通しをもとう」の一覧表があり、何度も繰り返し、積み重ねながら「言葉の力をつけていこう」においては、学習のポイントが明記されておりました。また、「学習」というページがあり、確認しよう、読みを深めよう、自分の考えをもとう、言葉を広げる、学習を振り返る、漢字の確認と、一連の流れが明確でありました。分量的に東京書籍は本市の生徒には多いかなという懸念がありますが、教科書としてはよくまとまっていると思います。多様な学びや課題学習という点において、三省堂においては「考える広場」で「学ぶ力を高めよう」において、さまざまな方法が提示されていたり、「枕草子」においては見開きの絵巻を使い、生徒の興味を誘っている点がよいと考えました。

それから光村図書出版は、多様な学びという点において、導入がとても丁寧で言葉に出会うために声を届ける、書きとめる、調べる、続けてみようという基本的なことがまとめてあるのがとてもよいと思います。「学習を広げる」という資料編も充実しており、多様な学びができると感じました。

また、古典教材で「月に思う」と題して、「竹取物語」の導入に絵巻、絵本、切手、映画と多彩な図版を用いて興味を引き出しているのがとてもよいと感じました。

文法についても難しいと思わせないように、『『ない』の違いがわからない?』というような題材に工夫があるといった点で、光村図書出版がよい

と思います。

井上委員

3つの観点から検討いたしました。まず、主体的な学びができて、学び方でみずから話す、聞く、書く、読むの3領域と伝統的な言語文化と国語に関する事項のバランスがよいということ。2番目に、藤沢の子どもたちにとって意欲的に取り組めるか、学習材に興味、関心が湧くか、わかりやすいかという点として、古典や読書活動が学びやすいか。3点目に家庭学習に使える教科書か、感想文や意見文を書く力がつく教科書であるかという観点から検討し、光村図書出版がよろしいかなと思いました。

関野委員長

私は三省堂の教科書がいいと感じました。三省堂の教科書は全体的に見やすい構成になっていると感じました。色遣いなどもすごく温かみがあって、子どもたちにとっては教科書自体に入り込みやすいのではないかと思います。中1ギャップといった話もありますけれども、教科書が突然小学校から難しくなると、そういうところも顕著にあらわれてしまうのではないかと思いますので、非常に入りやすい三省堂の教科書はいいと感じました。

また、「学びの道しるべ」では具体的にどう学んでいくかがよく示されておりまして、国語の力をつけていくにはすごくわかりやすいつくりになっているなど感じました。「読み方を学ぼう」では、読解の方法を段階的にわかりやすく説明していて、子どもたちの文章に対する理解がより深まる工夫がされているなど感じました。

光村図書出版につきましては、「漢字を確認しよう」での練習問題がとても充実していて、子どもたちがみずから学習に取り組みやすいのではないかと思います。また、教材ごとの目標が明確になっていて、何を学べばいいか、子どもたち自身にとってもすごくわかりやすい教科書なのかなと感じました。

関野委員長

いろいろな視点からご意見をいただきました。皆さんのご意見をまとめますと、最終的に、国語は光村図書出版ということでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議がありませんので、国語は光村図書出版にいたします。

×××

関野委員長

続いて、書写についてです。発行業者は5者、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版です。ご意見をお願いいたします。

小竹委員

書写は日本の伝統的な文化でもありますが、現在の家庭の中で日常的に取り扱うこともなかなか難しいと思われれます。学校での書写の時間はこの観点からも貴重なものと思っております。三省堂と光村図書出版がよいと思いました。どちらも毛筆、硬筆の書き方のみならず、手紙文の書き方や

送り状の書き方など、実生活での使用例を紹介し、字を書くことの提案がされていますが、結果として、楷書と行書を並べて学べるというわかりやすい点で、私は光村図書出版がよろしいかと思いました。字も美しいとおもっています。

井上委員

楷書と行書の基本的な書き方、あるいは漢字と仮名の使用を考えて行書、楷書の書き方を場面に応じて選んで書くことということと、身の周りの多様な文字に関心を持って、文字を選んで効果的に書くこと、あるいは国語の教科書と同一の会社とすれば、光村図書出版でよろしいかと思えます。

吉田委員

書写については、読みやすく、早く書く技術、目的や必要に応じて楷書、行書などの使い分け、効果的に文字を書くことができる子どもたちであってほしいと願っています。まず、構成については、三省堂は学習の流れがしっかりと見える構成になっており、学習の見通しを持つことができるように思います。その中で「考えよう・話し合おう」、「書いて確かめよう」、「振り返ろう」を取り入れて、復習を行っていくことも可能です。また、学習を生かして主体的に書くといったように、読み手の受けとめや、目的に適した書き方も考えさせるようになっていくところがよいと感じました。

光村図書出版についても、扉で「中学三年間の見通しをもとう」のコーナーがあり、学びの流れがわかるということが一番よいと思いました。加えて、学習の見通しが持てる目標や学習の窓を通して、学びが継続できるようになっていることもとてもよいと感じました。日常生活や学校生活に役立つ資料も充実していき、「学びから活用へ」と、生徒がみずから取り組もうという意欲喚起ができるように感じました。

また、先ほど小竹委員もおっしゃっていましたが、中学生になって学び始める行書について、見開き3ページを使って楷書との違いを明記していて、筆遣いも一目瞭然であるということ、特に中学生として入門に当たる行書を重点的に扱っているという点から、書写は光村図書出版がよいと思えます。

阪井委員

皆様のご意見もございしますが、私の観点から申し上げさせていただきたいと思えます。書写は小学校のときから学んでいるわけですが、小学校で学習した内容が基本的な姿勢や道具の使い方、片づけ方などがわかりやすく記述されているのが光村図書出版だと思います。また、先ほどから皆様がおっしゃっているように、見通しを持って学ぶことができるような構成になっておりました。そして「季節のしおり」の中では日本の伝統的な和歌や詩、俳句や物語などをなぞるような教材もあり、非常に日本の文化的にも興味を持てるような題材も取り入れられていたように思いま

した。「地理スキル・アップ」においては、基礎的な学びを示して、1人で学べる力が育成できると思われます。

帝国書院は、「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」、「学習をふりかえろう」、「技能をみがく」といったように、学習の流れが明確に示されていました。また、イラストや図表から生徒が課題を持ち、探究していくことができる、そのようなつくりになっているとも感じました。また、学習課題がきちんと示されていて、自分の言葉で表現することができる、そのようなつくりになっているとも感じました。地域学習については、注目する視点、ここがポイントだということを示しながらも、その他にも視点があるというように、学びを広げていくことができる工夫がされているとも感じました。その他にも「やってみよう」というコーナーで、生徒の意欲を啓発する場面があったり、いろいろな場面で生徒の学びを広げられるのではないかと感じました。地理は帝国書院がよいと思います。

井上委員

情報量でいきますと、東京書籍がたくさん載っているかなと思います。帝国書院につきましては、グラフ等の作品がたくさん多いということです。鎌倉の津波対策も紹介されているというようなこと、それから世界の諸地域に関する地理的な認識、あるいは国土認識の充実、身近な地域の調査、地図の活用を考慮しているところで、私は帝国書院を挙げたいと思います。

小竹委員

帝国書院の教科書は、世界や日本のいろいろな地域の紹介がありまして、構成バランスもよろしいかと思ひます。写真、地図、グラフとも大きく、見やすく、理解しやすいと思ひました。自然災害についても火山、地震、津波などの紹介から防災、減災への工夫が示されております。ハザードマップでは鎌倉の長谷、由比ガ浜周辺が取り上げられており、藤沢市の子どもたちにとって興味深く、受け入れられるのではないかと思ひました。

阪井委員

地理の学習の目標は、世界の諸地域に関する地理的な認識ができること、また、国土の確認ができること、そして地域の特性がわかること、地図の活用を中心として地理的な技能を育てること、また、身近な地域の所作の中で社会参画への態度を養うことが地理の学習の目標かと思ひます。そういう意味では世界の諸地域に関することでは、東京書籍の本の中におきましては、世界の諸地域だけ出てくると、常に日本と地域を比較するというような資料や統計が、統一した形で載っているところは非常によいかと思ひました。また、資料や写真、統計などが非常に豊富なことは子どもの理解を深めることになるのかなと思ひました。最後に、「スキル・アップ」というコーナーがあって、自分の言葉で説明をする、そして自分の言葉で考えるような工夫が随所に見られました。

帝国書院の本は、章のはじめに、これから学ぶことを写真でテーマをあ

らわせるような、興味を引くような導入になっていました。随所に使われる資料や統計が非常に新しいものが使われているので理解しやすくなっておりました。また、「技能をみがく」、「学習をふりかえろう」というところで、実際に作業をすることで図やグラフを読み解く力を身につけることができたり、また、実際に作図をする力が身につけられるのではないかと思います。そのような活動を通して「説明しよう」、「確認しよう」で、みずから気づいたことや考えたことを発表するような工夫もあり、非常によいづくりになっていると思いました。「声」のコーナーや「羅針盤」の説明文にはさらに理解を深められるようなことがありました。また、本文の中に出てくる用語の説明も同じページの中にあって、また、補足するものが解説として載っていて、子どもたちがわかりやすい構成になっている本だと思います。以上のような観点から、私は帝国書院の本がよいのではないかと思います。

関野委員長

私も帝国書院の教科書はよいのではと感じました。帝国書院の教科書は写真やグラフ、図などが非常に多く掲載されていて、ぱっと見るだけでも子どもたちが興味を持って学習に取り組めるような、つくりになっていると思います。また、項目ごとに学習課題が明確に記載されており、それを「確認しよう」、「説明しよう」できちんと振り返ることで、しっかりと学習できる仕組みになっていると思いました。また、「ハザードマップを使って見よう」というページでは、先ほど小竹委員もおっしゃいましたが、お隣の鎌倉市を事例に取り上げていまして、身近な地域が掲載されていることで、子どもたちがより興味を持って学習することができると思います。日本の諸地域の記述についても各地方についての特徴は、細かくありまして、日本という国を理解するのにとても役立つのではないかと感じました。

関野委員長

それでは、社会（地理的分野）は帝国書院でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議ありませんので、社会（地理的分野）は帝国書院にいたします。

×××

関野委員長

続きまして、社会（歴史的分野）についてです。発行業者は8者、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社、学び舎です。ご意見をお願いいたします。

小竹委員

私は東京書籍、帝国書院、育鵬社についてですが、どの教科書も明治以降についての近代史に多くの紙面を使っており、内容的にも類似している部分が多かったと思います。また、資料とか写真、コラムに工夫がされておりまして、東京書籍、帝国書院は全体的に日本史と世界史のバランスがよく、また、最近の政治の流れまで書かれていると思いました。東京書籍

にはページの下方に年表が書かれており、今、どの時代を学んでいるのかを理解しやすいと思いました。帝国書院と育鵬社では、図、写真が東京書籍に比べて主観的ではありますが、図、写真がより見やすくなっていると思いました。育鵬社では日本史、世界史の比率を見ると、やや日本史中心の傾向を感じますが、その分で明治以降の史実をよく記載してあると思います。日本の歴史が世界の歴史に比べて多いという考え方もあるかもしれませんが、自国のことを中心に学ぶということはあってよろしいのではないかと思います。

また、人物紹介の点で 539 と多くの人物紹介がされておりまして、その人物紹介の仕方も「なでしこ日本史」という女性の方たちや外国人から見た日本ということで、いろいろ外国の方たち、それから日露戦争の舞台裏とか、いろいろなコラムで生徒たちが歴史に興味を持つ切り口を多くつくっていただいているのではないかと思います。最後の方に 2020 年の東京オリンピックの開催の記事が少し載っていたのが印象的でした。以上の点から育鵬社がよろしいかと思いました。

井上委員

歴史につきましては、我が国の歴史の大きな流れを理解するということが大変重要だろうと思います。そして歴史について考察する力や説明する力の育成、あるいはさまざまな伝統や文化の学習、そして我が国の歴史の背景となる世界史の扱いなど、総合的に判断した場合、東京書籍ですが、現在、藤沢市で使用されている育鵬社につきましても、文部科学省の新学習指導要領に忠実に沿っており、古い伝統や文化を継承させようとする特徴のある教科書だと思います。そして社会の歴史的分野におきます学習のポイントとしては、近現代の学習の一層の充実、そして歴史について考察する力や説明する力の育成、そしてさまざまな伝統や文化の学習の重視、そういったところを検討した場合に、私は現在使用されている育鵬社をもう一回使用してもいいのかなと考えております。

吉田委員

歴史の学習ですけれども、大きな目的はやはり歴史の流れを理解して、これからは生きる自分の役割を認識して、未来への生き方を考えることにあると思います。そういった意味で、私は先ほどから申しておりますように、学び方が学べる教科書というのに着目しております。

まず、帝国書院ですけれども、歴史のとらえ方、学び方、調べ方について 10 ページにわたって掲載していて、学び方がわかるという点では非常によいと思います。「タイムトラベル」としてステップが明確に示されているところも評価に値します。「学習の前にながめてみよう」、「学習をしながら確認しよう」、「学習を振り返ろう」では、改めて、はじめの学びの検証を行うようにしているという点においても、繰り返し学習をしていく

意義を感じさせます。「トライアル歴史」の「やってみよう」コーナーで、資料をもとにみずから考え、謎を解く、そのような仕組みになっているところも高く評価をしています。技術を磨くことにつながっていくと思うからです。

さらに歴史を深める意味において、「歴史を探ろう」につながっているところも歴史を学ぶ意義を非常に感じるどころです。また、章末に「説明しよう」というコーナーがあり、そこでパターンを示して、どの題材を選んでもいいようになっているという点においては、多様性があり、絵図と文字のバランスも非常によくとれている教科書だと思いました。

また、東京書籍ですけれども、こちらも歴史の学び方を非常によく例示をしていて、流れ全体にポイントを置いて、日本史、世界史のバランスがとてもよいと感じました。思い出しながらまとめていくように設定がなされておりますし、調べ学習については、テーマや調べること、考察の仕方を具体的に提示して非常にポイントがわかりやすいと感じました。また、丁寧に調べ学習について例示をしており、調査の達人として、図書やインターネットの使い方についても示しているところもございました。

課題学習については、「歴史にアクセス」や下段のところに「確認」というのがありまして、そこが自分の題材を見つけやすいような状況になっているというふうに思いました。「深めよう」や「トライ」なども課題とするテーマを見つけやすくなっており、時代を多面的、多角的にとらえられるまとめとしてのこの時代の特色をとらえよう、この時代の学習を確認しようという点においても課題がきちんと整理され、歴史の流れをまとめるという意味では最適ではないかと感じました。

また、今、2人の委員がおっしゃっている育鵬社ですけれども、前回の採択の際に課題であった、歴史の流れがわかりにくいという点は大変改善されていると思いますし、特に人物の扱いについてはどのように調べ、まとめればよいかということが明確に示されているように思います。「鳥の目、虫の目」という絵巻を通して見る日本の伝統文化にも興味・関心を引くようなものがあるというふうにも感じました。ただ、全体のバランスそれから繰り返し学ぶことを主眼に置いて、歴史の流れをとらえていく、日本史、世界史とのバランス、学びを通して自分の課題として歴史をとらえていく、そういった視点では東京書籍がよいかと思います。

阪井委員

この歴史で学ぶことは、先ほど井上委員もおっしゃいましたように、まず歴史の大きな流れを理解すること、そしてその歴史について考察する力や、それを説明する力を育成すること、また、近代・現代の学習をすることによって理解を深めること、伝統文化の学習、我が国の歴史の背景とな

る世界史の取り扱いを充実させることとあります。その中で私は2者の本について特色をお話したいと思います。

まず、東京書籍は歴史を学ぶという観点におきましては、非常に年表の色と各章の色が合わせられていることにより、時代を理解しやすくなっていることがよいのかなと思いました。また、本文下のページの特に左下の方に年表が載っているので、今、自分がどの時代のことを学んでいるのかということが理解しやすいつくりになっていると思います。まず、一番最初、本を開いたところから日本の国宝や重要文化財、そして世界遺産が写真で記されていて、歴史学習のはじめに、歴史は昔のことを記憶していく学習ではなく、過去の人々の生き方に関わる学習なんだよというような取り扱いになっていました。その中において「歴史スキル・アップ」、「深めよう」で、関心を持たせ、考えを深めて、さらに広げられていくような工夫をされていると思いました。同じページの中に語句の説明が、番号が振っていてわかりやすくなっているのもよいと思いました。「歴史にアクセス」、「調査の達人」、「女性コラム」など技能を身につけたり、それに関連する内容を深めること、また、女性の姿を紹介し、理解を深めるようなつくりになっているのもよいと思いました。「トライ」や「確認」で学習内容を確認して深めていくこともできるようになっておりました。各章に「私たち歴史探検隊」というコーナーがあって、地域の歴史を調べる学習活動をしていけることも示されていました。旧東海道の藤沢宿にあった我が市が地域の歴史を調べるときには、これを活用することができるのかなと思いました。

一方、育鵬社ですけれども、一番最初に「これから歴史の旅を始めます」ということで、歴史のものさしが表示されていて、年代や時代の区別があらわされ、「人物Q&Aカードのつくり方」ということで、人物と歴史の理解ができるように、最初に記述されておりました。各章のはじめに、ものさしの入った年表で学習の範囲が表示されていて、この歴史を旅していくというイメージで船の写真が各章のはじめに出ておりました。歴史の絵巻を「鳥の目」で見ることで大きな時代の流れを確認し、「虫の目」でいろいろな問題が提示され、本文に入っていくというつくりになっていました。その本文の中には人物がクローズアップされ、「歴史ズームイン」でさらに学びを深めていけるつくりになっています。用語も欄外にきっちり書かれていて、資料集がなくてもわかるような編修になっていました。図や写真もあって「調べてみよう学習」では、これらを使って理解を深めていくことができるかと思います。「このころ世界は」というようなページも用意されていて、世界史もちゃんと記述されています。「なでしこ日本史」

夫が編集の中に感じられました。章ごとに色分けをされていて、写真のページから始まり、何を学習するのが非常にわかりやすくなっていました。文章はやさしい文章でした。用語についても先ほどの歴史と同じように、欄外に補足して理解が深められるように説明がつけられていたり、図や表や写真も多く取り入れられていました。「公民にアクセス」や「深めよう」、また、インタビュー、コラムなどで体現した知識を補うことによって理解を深められる工夫がされています。「公民にチャレンジ」や「トライ」で考えを深めたり、話をし、理解を深く展開させるような工夫があったかと思えます。

もう1冊は育鵬社の教科書です。この教科書の特色は、まず、「なぜ公民を学ぶのか」という疑問の提起から始まっていて、公民とは何なのか、何を学ぶのかということが人生のものさしという形で書かれていました。自分の過去、現在、未来を考えることで、他人事であったことが自分事になり、また、学習の内容の理解につなげられていくようなつくりになっていました。「つかむ、調べる、まとめる」で公民的な資質を育む、そんな編修になっていたように思います。「考えよう」、「やってみよう」で、みずから考える設定もあります。章のはじめを入口として考えさせ、最後をまとめて学習の確認ができるようになっている、非常にできのよい教科書だと思います。

吉田委員

公民については、やはり法令、政治、経済を学ぶことによって個人と社会の関わりを理解して、社会の課題について、みずから考えようとする生徒を育むということを目指していただきたいと考えます。そういう点で教科書ですが、3つの教科書について述べたいと思います。

まず、東京書籍ですけれども、章のはじめに、スーパーマーケットから現代社会を見てみようとか、「ちがいのちがい」といったように、話し合える教材を用意して、身近な課題をみずからの手で探り出し、学習を深めようとする意欲につながると感じます。これは教員の調査書の中にも「見開きに、本時のテーマがあり、スムーズに課題に入れるように工夫されている」というふうにありますし、「ポイントには解説も準備され、わかりやすく工夫されている」というふうにも書かれておりました。また、公民として生きていく上では、いかに世の中のことを自分のこととしてとらえ、多くの人々の意見に耳を傾ける中で、自分の意見を主張するかが問われると思いますけれども、「公民にチャレンジ」のコーナーにおいて、個人の課題として、またグループの課題として、共に作業を行い、学びを深めることができるようになっていました。「深めよう」で学んだことを実際に生かすようにするために、コラムがあり、「トライ」によって実践活動へ

と結びつけるようになっている、頭の中で考えることから、実生活の中で実践に結びつけていくところが優れているというふうに思いました。何より身近な課題について学んだことを活用して話し合う場面の設定が多いということは、藤沢の生徒にぜひ身につけていただきたい力だと私は思います。

帝国書院については、歴史と同じように、学び方が大変よくわかるように構成されております。学習の前に、授業の始めに、学習課題があり、クローズアップで実社会の実例を示して、授業の後に「確認しよう」があり、学習上大切な手順を書き出す作業の紹介である「説明しよう」につながり、そして章の終わりに「学習を振り返ろう」ということを設定しています。細かい内容の点でも幾つかよいところがあるのですが、全体の流れとしては帝国書院もよいなと思いました。

育鵬社ですけれども、育鵬社はまず人生のものさしを掲載して、自分の過去、現在、未来を自覚させるためのシートがあって、自分を振り返ることができるようになっています。学び方として「やってみよう」とか「家族が生きてきた時代を調べよう」といったようなテーマの設定がしっかりとされており、「やってみよう」、「理解を深めよう」、「考えよう」で、生徒が身近に感じて意見交換ができるような題材も取り上げているというふうに思います。ただ、先ほど申し上げたように、実際の社会と自分たちを結びつけて考え、それを自分の考えをまとめた上でグループと協議をしていく、そういう実践的な活動の流れの中を見ていきますと、東京書籍がよいかなと思います。

井上委員

公民的分野につきましては、現代社会をとらえる見方とか考え方の基礎を養う学習、そして現代社会のとらえる見方、そして経済や金融というようなどころまで学習が重視される点をというふうに思います。そして課題の探求を通して社会の形成に参画する態度を養う、こういったことが求められる問題だと思います。そういう中で東京書籍につきましては、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として、必要な公民的資質の基礎を養う、あるいは人権尊重の意識、民主主義及び民主政治の理解をすること、そして社会の仕組みや経済活動に対する見方、考え方がしっかり述べられておるというふうに感じました。

もう一点は育鵬社ですけれども、他人事ではなくて自分のこととして現代社会をとらえる教材を充実させているというふうに感じております。

以上から、私は育鵬社並びに東京書籍ということで説明いたしました。

小竹委員

先ほどからお話にのぼっております東京書籍と育鵬社ですけれども、どちらも国家機能とか行政、経済、社会保障など図や解説でとてもわかりや

すく丁寧に説明されていると思います。東京書籍ではシミュレーションが「市長に立候補してみよう」とか、模擬裁判などと具体例を示しながら考えることを促しております。巻末はレポートの作成のページがあり、資料の収集から読み取り、考察、話し合いの資料があります。震災についてですが、こちらの方は仙台の被災を取り扱っておりまして、この被災の実態もそうですけれども、その規模と復興、防災に向けての取り組みが示されておりました。章ごとに学習のページがあって、家庭学習にも便利だと思いました。

育鵬社は、全体の記載が東京書籍よりも自由な形で進められているので、シミュレーションの具体例などはあまり示されていないけれども、その分、自分たちで題材を選んでプレゼンテーションができるようなゆとりと自由度が授業に参加できるようなタイプの教科書ではないかなと思いました。東京書籍に比べると、国の権利とか領土問題について詳しく提示をしております。また、東日本大震災については実際の出来事、それから各国からの支援とか世界から見た被災を受けた日本への評価などが記載されており、規律正しく対応する日本国民の評価が生徒たちの日本人としての誇らしさを感じてもらえる一助になるのではないかなと思いました。

本の一番初めに、「戦後の日本と世界の主なできごと」という年表がありまして、学習を始めるに当たってインパクトがあると思いました。

育鵬社がよろしいかと思います。

関野委員長

私も公民は育鵬社がいいと思います。先ほど阪井委員もおっしゃっていましたが、巻頭に「なぜ『公民』を学ぶのか？」という文章がありまして、自分も国や社会などの公の一員として考え、公のために行動できる人と公民の意味をわかりやすく説明するところから導入されています。また、「人生モノサシ」というページでは、法律、政治、経済、国際社会などがどのように自分と関わってくるのか、必要なかということが書かれていて、義務教育を修了して、社会に出る前の心構えを養うのにはとてもいいように感じました。「やってみよう」というページでは、取り組みやすいテーマを通して考え、話し合う活動ができるのもとてもいいなと感じました。「理解を深めよう」というコーナーでは、より詳しい記述がされていて、子どもたちの興味を引く内容になっているなと思います。以上のことから育鵬社がいいと思いました。

その他、ご意見ございますか。

吉田委員

今、東京書籍か育鵬社かというような感じで論点が整理されているのではないかと思います。いろいろな面で、先ほどの歴史もそうですけれども、人としての生き方、それから日本の国への愛情とか社会の形成についての

考え方、生き方については、歴史や公民の時間ということだけではなくて、中学生の生活、教育活動の全般を通して子どもたちに育んでいく力ではないかなと思います。そういう点で見て、教科書をどう使うか、教科書をどのような形で子どもたちに教えていくか、そういうポイントとあわせて子どもたちがどのように学ぶかということは非常に必要になってくるというふうに考えると、学び方が多いもの、それから先ほどから何度も申し上げておりますけれども、多面的、多角的に物事を見ていく力がつく、例えば日本や世界が抱える諸課題について話し合いによる学習ができて、それを深めさせていくができることから、全体に写真の量も多く、それによって資料から判断することができる。課題についても生徒が興味を持って実際に取り組んでいけるような、例えば今度、18歳で参政権が与えられますけれども、そういった課題があるものというような観点からすると、私はぜひ東京書籍を推したいと思います。

関野委員長

その他、ご意見ございますか。

ないようですので、たくさんのご意見、ありがとうございます。東京書籍と育鵬社ということで、いろいろご意見をいただきましたけれども、育鵬社の方が若干ご意見の数が多かったように思いますので、社会（公民的分野）は育鵬社ということによろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議ありませんので、社会（公民的分野）は育鵬社といたします。

×××

関野委員長

続きまして、地図についてです。発行業者は2者、東京書籍、帝国書院です。ご意見をお願いいたします。

阪井委員

地図帳は、これを活用し、地理的な技能を育成するということを学んでいくためのものだと思います。その中におきましては、帝国書院の地図は、色遣いがはっきりしていて、土地の高低差が非常にわかりやすくなったり、世界地図の中には日本の地図が入っているようなことから日本の位置が理解しやすいと思います。また、地図帳の使い方が5ページにわたって掲載されていて、「やってみよう 地図を見る目」があり、地図を読み取る力を学ぶのによいかと思います。統計の資料も新しく、グラフも多く、索引の数も多く調べやすい地図帳だと思いました。

小竹委員

私も帝国書院がよろしいかと思います。全体に鮮明な色遣いやレイアウトが見やすく、地図帳は、地理はもとより修学旅行の下調べなど、多方面に活躍するものですので、紙や見開きに工夫がありまして、とても長い間使用するのに適切だと思います。

井上委員

私も地図は帝国書院と考えておりました。その根拠はデータや索引数が

飛び抜けて多いということでございます。

吉田委員

2者とも大変見やすく、地図の初期として特に東京書籍はいいのかなと思います。帝国書院の地図については、中学校の社会科及びその他たくさんの方々の機会の中で、社会科の辞書的な役割を持たせているというふうを考えています。まず、巻頭にこの「地図帳の使い方」というものが載っており、地図への関心が高まるようにできています。9ページからの資料図がとてもよくできていて、課題に応じて地図が使える、専門的な知識も豊富であると感じました。また、課題学習として、地図は珍しいと思うんですけども、「地図を見る目」、「やってみよう」といったことも掲載されていて、単なる資料としての地図帳ではなく、多面的、多角的に学べるように工夫されていると感じました。索引も大変多くて専門的な知識量が豊富であると感じましたので、帝国書院がよいと思います。

関野委員長

私も地図は帝国書院がよいのではと感じました。地図というのは、子どもたちもたくさんある教科書の中で、一番好きな教科書の部類なのではないかと思っているのですけれども、中学生になってより詳しく、細かく資料として活用するには帝国書院のものがとてもいいと感じました。地図の内容も一般的な平面のような地図と陸地の高低差がわかりやすく表記されているものですか、都市部の様子が細かく地図上に表されているなど、子どもたちの調べたい、知りたいといった用途にさまざまな形でこたえてくれて、いろいろな使い方がしやすいなと思いました。また、表紙とか綴じ込みページの折り目などが補強されていて、傷みにくくなっていて、長く活用できるように工夫されているのもとてもいいなと感じました。

関野委員長

ご意見をたくさんいただきました。地図は帝国書院ということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議がありませんので、地図は帝国書院にいたします。

×××

関野委員長

続きまして、数学についてです。発行者は7者、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、数研出版、日本文教出版です。ご意見をお願いいたします。

小竹委員

小学校の算数という形から数学という形に教科が変わってまいります。小学校の振り返り、ノートを使い方が本の初めに示されており、構成もわかりやすく、急に難しくなることもないという観点から学校図書がよろしいかと思いました。物足りなさが感じられれば現場の先生方の方で生徒に合わせたレベルアップをご提案、ご指導いただければよいかなと思いました。ご存じのように、数式とか図形とかという大まかなジャンルはござい

ますけれども、数学は積み重ねなので、途中で投げ出してしまうとやり直すのに時間がかかり、また、嫌になってしまうという教科だと思います。ドロップアウトさせないことも学習目標として大事なことだと思います。以上の観点から学校図書がよろしいかと思いました。

阪井委員

小学校の算数から数学に変わっていく戸惑いがあったり、また、算数や数学は苦手のお子さんが非常に多い教科なのではないかなと思います。そういうような観点から、2つの本の特色をお話したいと思います。まず、東京書籍は、巻末に小学校で習ったことを振り返ることができる絵図がありますので、戻って苦手なところを克服していくことができるのかなと思いました。また、「数学マイノート」でノートの使い方の例図がしてあって、学んでいくことを段階を追ってノートを活用して理解していけるような説明もあったのも、深く理解していけるようになるのかなと思います。章の終わりに復習や発展的な課題があって、基礎を定着させ、学びたい子はさらに学んでいけるような取り組みがあるので、学習の進度の違うお子さんにとっても、それぞれの学びができるのでいいかなと思いました。グラフや図も大きく、そこに書き込めることができるのもよいと思いました。

もう1冊は教育出版の教科書です。小学校の振り返りが巻末に載っておりましたので、困ったときの振り返りがしやすくなっていました。そして章の最初に「Let's Try」という形で、既に学んでいることを確認し、それを数学的な表現に変えてあるというようなことから、非常に学びやすくなっているのかなと思いました。「伝えよう」、「話し合おう」、「みんなで数学」などで話し合い、説明するような言語活動にも活用できるかなというような取り組みも見受けました。「チャレンジコーナー」、「自由研究」など発展的な学習をしていくためにも工夫がされていて、それぞれのレベルにあった学びができるような本になっていると思いました。どちらの本も使いやすいと思うのですけれども、藤沢の子どもたちの現状を見ると、教育出版の教科書がふさわしいのではないかと感じました。

吉田委員

小学校において算数の苦手意識を持っている子どもはたくさんいるのではないかと思います。そういった子どもたちが中学校に上がったときに、「数学」という名前を変えた教科が少しでも楽しく学べて、日常生活にあらわされている、いろいろなところに数学が実は使われていて、大変身近なものなんだと感ぜられることや、活用できる実感が持てるというと思います。そういう意味で、教育出版、東京書籍ともに学習の流れがきちんとしておりますし、特に東京書籍は学び合いを軸として、まず自分で考え、友達の考えを知り、話し合いを行い、振り返ることによって深めることを各単元で行っておりますし、これは先ほどから何度も申し上げているよう

に、東京書籍のよいところだと思います。問題に関しても節の終わり、章の終わり、巻末にそれぞれ用意されておりまして、繰り返し、繰り返し練習ができるように構成されていると感じました。また、巻末に「社会とつながる」という形で読み物を用意しておりますし、数学を広げることでより進んだ学習を教科につながるということで、他教科との関連づけも行って、さらに数学に関する歴史をまとめているという点でも生徒が数学への興味を持つようになるのではないかと思います。

教育出版ですけれども、こちらは章の学習のスタートで、まず学んだことを確認しています。そして「Let's Try」で、はじまりの学習につながる課題を行った上で、改めて章の学習に入るようになっていて、学びのための準備ができるというふうに思います。ねらいをつかみ、問題に取り組むこと、考えて確かめを経た後、「みんなで数学」として新たな規則性を発見したり、日常生活での数学の利用を見つけたり、自分なりに説明し合えるという章のまとめ的に扱っているところもとてもよいと思いました。また、学習内容を活用する「チャレンジコーナー」、興味を広げる「数学ミニ事典」、「数学の広場」などがあって、読み物としての数学にも興味が持てるように工夫がされていると感じました。さらに巻末になりますけれども、「数学で大切にしたい考え方」によって、基礎的な事項をきちんと押さえた上で、多角的に物事を見、多様な考え方を導き出すよい問題が載せられていると思いました。生徒が入りやすい楽しさがそれぞれの入口に用意されて、手順を追って進めていくことで、達成感が持てるつくりになっているということは、小学生時代に算数が苦手だと思った生徒が、少しでも興味を持って取り組めるのではないかという期待を込めて教育出版にしたいと思います。

井上委員

数学の教科のポイントについては、先ほどから説明がありましたように、小学校の学習の円滑な接続というような観点、そして基礎的、基本的な知識・技能を確実に定着させるというために、発達の段階に応じた指導の充実、そして学ぶことの意義、有用性を実感できるなど、学習指導要領により近いものとして教育出版がふさわしいと思います。

関野委員長

私も数学は教育出版がいいなと思いました。教育出版の教科書は数学の苦手な子どもをなくするという工夫が随所に見られているというふうに感じました。章ごとに導入部でいきなりつまづかないように、復習から入って、さらに図や写真、イラストなどを使って、子どもたちにも難しさを感じさせないように、徐々にステップアップしていくようなつくりがされていると思います。また、ポイントになる部分を目立たせるように、下地が黄色く塗られていたり、文字の大きさも1年の初めの部分は大きくなっ

めへとつながる、流れる化がきちんと示されていると思います。両方とも余りに丁寧すぎて、子どもたちが考える場面が少ないのではないかと感じました。

その点、大日本図書ですけれども、大日本図書の教科書は1年生の導入のページで、詳しく理科に関わる学び方や道具の使い方を示しております。そしてみずからの探求に取り組める「わたしのレポート」や「自由研究にチャレンジしよう」などがあり、自分の考えをまとめ、論述する中での思考力、判断力、表現力を養えるような幅の広さを感じます。私自身も小学校で理科を教えていた際に、理科の授業では基礎的なことはきちんと指導しますが、できるだけ子どもたちの発想を大切にしたい観察実験を行ってまいりました。中学校においては少ない授業時間の中で、どの力を伸ばすのか、効率的な授業のあり方を模索する必要があると思いますけれども、子どもたちの発想による自主的な授業、そういったものもつくっていただけたらと思います。そういう幅の広さという点で大日本図書がよいと思います。

阪井委員

2人の委員からのお話に重複するところは割愛させていただいて、つけ足したいと思います。私も大日本図書がよいと思います。この本のよいところは、「くらしの中の理科」、「トピック」などで理科と日常生活を関連させるようなコラムが紹介されていたり、また、単元に関わる仕事が「プロフェッショナル」というところで紹介されているところも、日常生活と理科を結びつけるというところでは、興味・関心を引くのではないかと考えました。また、藤沢市ではよく夏休みに自由研究の課題などが出ますが、巻末に主体的に探求できるような自由研究の課題が例示されているのもよいと思いました。

小竹委員

大日本図書もよくできていて、見やすい教科書だと思います。また、図とかグラフ、写真がより大きく見やすいという点で学校図書もよろしいかと思いました。

関野委員長

私は大日本図書がいいかなと思います。大日本図書の教科書は、単元ごとの学習する内容について、身近なものを取り上げていて、抵抗感なく学習に入っていけるように、写真やイラストをうまく配置して工夫していると感じました。「プロフェッショナル」というコーナーや「くらしの中の理科」というコーナーでは、理科の仕事が身近な環境などにかかわっていることを示し、興味が持てる内容にしていると思います。子どものキャラクターが随所に疑問やヒントを吹き出しの形で記載されているのも、子どもたちの理解を深めるのにはとても有効だと感じました。

それから啓林館もよかったと思うのですが、別冊「マイノート」

で、生徒みずから学習する工夫がされているのはすごくいいなと思いました。また、ブルーシートが付録についていて、重要事項などの学習には積極的に子どもたちみずから取り組めるのではないかと思います。

関野委員長 ご意見ありがとうございます。理科は大日本図書でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議ありませんので、理科は大日本図書にいたします。

×××

関野委員長 続きまして、音楽（一般）についてです。発行業者は2者、教育出版、教育芸術社です。ご意見をお願いいたします。

吉田委員 藤沢市の中学校では各学校において合唱祭などが行われて、大変活発な活動をしていると思っています。各学校を訪問すると、生徒が熱心に合唱に取り組む姿によく出会います。基礎をしっかりと学ぶとともに、みずから歌うことを楽しみ、合唱の楽しさを知る生徒であってほしいと思います。教育出版の教科書ですけれども、作品に対する作者のメッセージ、写真等によって子どもたちの情操を豊かにするための仕掛けが随所にあると感じました。

教育芸術社においては、音楽としての学びが大変重視されており、学習の内容や手順が明確にわかりやすいと感じます。生徒が主体的に取り組もうとする要素が随所にちりばめられていると思います。特に学習目標に係る「ここが分かれば Grade up!」というところは、ポイントが明確でわかりやすく、目標達成が可能となるというふうに思います。「音楽学習 MAP」も学びの内容が明確で学びやすいし、さらに創作の活動を通して個人の創造性のみならず、グループの学習も進められているように構成されているところが大変よいと思います。歌唱、鑑賞と指導事項の関連もわかりやすく示されていて、主体的な学習が図れるように配慮されていると思います。また、合唱が好きな生徒が大変多いので、パートの旋律が覚えやすく、すぐに合わせられるようになっている曲が多いのも魅力かなと思います。教育芸術社がよいと思います。

阪井委員 教育芸術社の教科書についてお話をしたいと思います。非常にレイアウトがシンプルで見やすく、活発な合唱活動をしているということですが、楽譜が読みやすく、見やすい教科書だと思いました。音楽一般の中においては、歌唱、創作、鑑賞という部分に分かれていますけれども、創作にとっては音楽の得意な子は創作をすることはたやすいことですが、中には創作活動が苦手なお子さんがいらっしゃるかと思います。その中において教育芸術社においては、個人で取り組む旋律づくりだけでなく、グル

ープでつくっていくということもあり、音符ではなくて、1年生はイメージをもとにした創作、2年生では言葉のリズムを使った創作、そして3年生で楽譜、音符が出てくるというような形のつくりになっているのは、苦手な子どもが創作活動に取り組みやすいつくりになっているのではないかと感じました。以上のような観点から教育芸術社がよいのではないかと感じました。

小竹委員 私も教育芸術社がよろしいと思います。楽譜をメインに指導されるような配置になっておりまして、補助的に写真とかでイメージをふくらませるようなつくりになっています。構成も多彩でバランスもよく、また、合唱曲「ふるさと」では最初は二部合唱、三部、混声四部合唱と学年を追うごとにステップアップされており、合唱コンクールの盛んな藤沢市で使われるのにふさわしい教科書だと思います。

井上委員 学習指導要領の学習内容に沿って教材が配置されているということと、楽譜が目に行くようなつくりになっているのが特色であるのが教育芸術社ということでございます。学年が上がるにつれてステップアップして、徐々に高度化していく、バランスよく学習目標に沿っていき、親しみやすい曲から難易度の高い曲まで幅広く掲載されて、興味を引く構成が目立っている教育芸術社を推したいと思います。

関野委員長 私は教育出版がよいと思いました。教育出版の教科書は楽曲ごとの挿絵ですとか、写真がとてもきれいで、曲のイメージをふくらますのにととてもいいと思いました。子どもたちもビジュアルから入り込めるというのは、とてもやりやすいのではないかと感じました。また、「浜辺の歌」では藤沢の辻堂海岸の写真がとても大きく、そしてきれいに扱われておりまして、藤沢の子どもたちには大変親近感のわくページになっているなど感じました。

教育芸術社につきましては、実際の使いやすさにととてもこだわってつくっているように感じました。糸綴じで開いたページが閉じないように工夫されていたり、楽譜がメインのページはシンプルで見やすく、そして歌ったり、演奏したりする際には実際に使いやすいのではないかなと感じました。

関野委員長 ご意見をいただきましたけれども、音楽（一般）は教育芸術社ということでもよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議ありませんので、「音楽（一般）」は教育芸術社にいたします。
×××

関野委員長 続きまして、音楽（器楽合奏）についてです。発行者は2者、同じく教

育出版、教育芸術社です。ご意見をお願いいたします。

吉田委員

こちらの教科書も2者で、どちらの教科書についても、一つひとつの楽器の使い方を丁寧に示していると思います。そして丁寧に示されているだけ、1人でも練習ができるようになっていいると感じます。

教育芸術社の方は「アンサンブルセミナー」のコーナーがあって、学習の目標が提示され、具体的な活動を示す吹き出しなどもあり、とてもわかりやすく記載されていると思います。また、打楽器については、今までたたき方についての細かな情報がなかったように思いますけれども、今回はきちんと示されているという点がとてもよいと思います。打楽器は合奏のある意味、要であると思いますし、そのたたき方1つで演奏が決まるといっても過言ではないのではないかと考えていますけれども、丁寧にたたき方が示されていて、打楽器の音色を楽しむことができるように思います。また、演奏者の工夫次第、たたき方の工夫によって音が変わり、それに合わせて曲想が変わるといようなことも試せてよいのではないかなと感じました。以上で教育芸術社の方がよいと思います。

井上委員

音楽を形づくっている要素とか用語あるいは記号などを教材と関連づけて学習するように配置されているという点と、今、言われましたような打楽器を演奏しようというところで、これを活用した楽器や演奏法を選んで演奏できるように工夫されているということ、我が国や諸外国のさまざまな教材がバランスよく掲載されているということで、教育芸術社にしたいと思います。

小竹委員

私も教育芸術社がよろしいかと思ひます。リコーダーの演奏については演奏に入る前に、ただ、音を吹いて出す、音を聞くというような簡単なことから始まり、演奏の仕方に移っていくこと、太鼓をはじめいろいろな打楽器に関する紹介があり、また、和楽器について楽器の取り扱いから演奏の仕方まで丁寧に写真を使って説明されております。広いジャンルからの世界の音楽の紹介は、生徒たちに音楽器楽への興味、向学心を持たせるのに効果的だと思います。

阪井委員

私も3人の委員がおっしゃったように、教育芸術社の教科書が非常にいいのではないかと思ひました。先ほど小竹委員もおっしゃいましたけれども、リコーダーが基本的な奏法から難易度が高いアンサンブルまで載っているのも非常に魅力がある教科書だと思います。また、吉田委員がおっしゃったように、打楽器の奏法が載っているというのも非常によいと思ひました。

関野委員長

私も教育芸術社がいいと思ひます。教育出版と教育芸術社のどちらも生徒たちが楽器に前向きに取り組めるような工夫がされていると感じまし

た。その中でも教育芸術社は各楽器の初めに、小竹委員もおっしゃっていましたが、「楽器の音色を聴いてみよう」で、曲を実際に聴いてみることからの楽器の紹介、扱い方、そして実際に演奏するという流れがとても入りやすくなっていると感じました。また、リコーダーの部分Q&Aのところ、リコーダーの手入れについて触れているのは、楽器を大切に扱うという子どもたちの心を育てるという意味でもとても重要だと感じました。

関野委員長 ご意見、ありがとうございます。それでは、音楽（器楽合奏）は教育芸術社でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議ありませんので、音楽（器楽合奏）は教育芸術社にいたします。
×××

関野委員長 続きまして、美術です。発行業者は3者、開隆堂、光村図書出版、日本文教出版です。ご意見をお願いいたします。

阪井委員 この3者の教科書ですけれども、開隆堂と光村図書出版が2冊にまとめられているのに比べ、日本文教出版は1年生用、2、3年の上、2、3年の下というふうに3冊になっていました。また、出会いと広がり、学びの深まり、美の探求というような表題がついていて、それぞれ美術に関わりを持たせようというような配慮を感じました。特に際立ってこれはいいなと思ったのは、鑑賞のページが充実していることです。図版を大きくしたり、素材を変えたりすることにより、さらに深く鑑賞できるような工夫がされている。そのような観点から日本文教出版の教科書がよいのではないかと思います。

小竹委員 私も阪井委員がおっしゃられたように、日本文教出版がよろしいかと思えます。1年生用と2、3年用上下巻の3分冊になっておりますので、必要な分を必要なときだけ持っていけばいいという形になっているのがよろしいかと思いました。どれも中央に3ページの見開きの大作が紹介してありまして、1年生は絵画、2、3年生の上では和紙を使った作品紹介、2、3年の下では三十三間堂のダイナミックな写真といろいろな教材を用いて、芸術性に引き込まれるような迫力がございます。美術史の年表はいろいろな場面で使えると思えました。以上から日本文教出版がよろしいかと存じます。

吉田委員 美術においては時間数が大変少ない中、どのように生徒に啓発活動を行うかということが課題だと思っています。教科書を活用して作品を見ることを通して作品を身近に感じて、みずからも作品に取り組みたい、作品をつくってみたいと思えるような気持ちを育てたいと思えますし、これからの自分の人生において心豊かに過ごせる時間を確保しようとする、そ

ういった生徒の気持ちも引き出してほしいなと思います。そういう意味では、今、阪井委員、小竹委員もおっしゃいましたが、日本文教出版の教科書については、まず表紙に驚きました。表紙を見るだけでも美術への興味・関心が高まるように思いましたし、3分冊で大変学びやすい仕組みになっていると感じました。また、テーマが非常に明確で取り組みやすいし、巻末に技法の資料が充実していて、さまざまにチャレンジできるということもあります。そしてユニークな例示も大変多くて、そういったところから学ぶことができるのではないかと感じました。

それから先ほどの心豊かな人生を過ごすためにという意味では、鑑賞のページの充実、特に「教科書美術館」が充実していたり、北斎の版画が圧巻で、木版画に使用しているのとほぼ似たような感じの手触りの紙に印刷されていることなども、興味・関心を引くものではないかと思いました。私も日本文教出版がよいかと思います。

井上委員

3冊に分かれているということと、それぞれがそれぞれ見たくするような作品が多いというふうに感じました。描くだけではなくて活動を通して発想とか構想の能力、創造性豊かな技能、鑑賞能力などを育成できるというふうな観点から、日本文教出版を推薦したいと思います。

関野委員長

私も日本文教出版がいいと思います。日本文教出版の教科書は、多くの作家の作品が掲載されていて、子どもたちが美術への関心を持てるような教科書になっていると思いました。中でも、先ほど吉田委員もおっしゃっていましたが、浮世絵を紹介するところでは葛飾北斎の富嶽三十六景の「神奈川沖浪裏」がとても大きく掲載されていて、藤沢の子どもたちにもとても身近ですし、また、そのページだけ紙質を変えるなどの工夫もされています。三十三間堂の写真なども迫力があって、日本の文化にとっても興味を持てるようなつくりになっているなと感じました。また、生徒の作品もとても多く掲載されていて、実際の製作活動への意欲も高まるのではないかと思います。

関野委員長

ご意見をいただきました。それでは、美術は日本文教出版でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議ありませんので、美術は日本文教出版にいたします。

×××

関野委員長

続きまして、保健体育についてです。発行業者は4者、東京書籍、大日本図書、大修館書店、学研教育みらいです。ご意見をお願いいたします。

井上委員

保健体育につきましては、運動を豊かに実践していく観点、それから発達段階のまとまりを考慮して指導内容の明確化、体系化を図るということ

は重要だと感じます。特に大修館書店のものにつきましては、高校の保健教科書を長年つくってきたので、詳しく専門的でありながら、やさしく記述されているということから、大修館書店のものを推選したいと思います。

吉田委員

保健体育については、子どもたちがみずからの健康に関心を持って、運動や保健の学習を行ってほしいと思います。基礎的、基本的な知識を学ぶことによって、自分自身が健康を維持するためにどうしていけばいいのかということを考えて、実践する力を養ってほしいと考えます。そういった意味では、私は学研教育みらいのものがよいかなと感じています。大変構成がわかりやすく、教えやすく、学びやすい状況にあるのではないかと思いますし、これはなぜかという、見開きで指導が可能であって、「学習の目標」、「ウォームアップ」など、今ある知識、経験に基づいて本文の基礎資料を学び、練習として考えたり、調べたり、話し合ったりした後に、実際の生活で活用しようという流れが一目瞭然であると思ったからです。

また、課題学習として「もっと広げる深める」とか「探求しようよ！」というところが設定されていて、章の流れのまとめに向っていくところもよいのかなと思いますし、子どもたちが質問したいであろう内容については、カウンセリングとしてQ A形式で掲載しているのもよいかなと思いました。今、井上委員からご意見がありました大修館書店の教科書につきましては、扉の写真とかがとてもリアルで、見て感じるができるのかなと思いますし、また、また学び方として「ブレインストーミング」や「ディスカッション」、「先生の説明をよく聞き、教科書をよく読む」とか、「課題学習」、「実習」、「コンピュータの活用」を紹介して、どの学びが適しているかをその都度考えさせるというところがいいかなと思いますし、また、単元の要点がまとめられていて、コンパクトであるということは、事典としていいことかなと思います。知識の定着を図る分量としてはやや少ないかなと思いますので、これを使うとすれば、資料をうまく活用するという必要性があるのかなと感じます。

阪井委員

私は東京書籍についてお話したいと思います。保健と体育が学年別に構成されているので、キーワードで学習内容が連想されるので、見通しを持って学習ができるのでいいのかなと思いました。基本的な知識を定着させるという意味で、確認の問題や学習のまとめがあって、学習を振り返るような取り組みもあるのは非常によいと思いました。「やってみよう」、「考えてみよう」、「生かそう」で、ただ聞いているだけではなくて、ディスカッションをしたり、ブレインストーミングやロールプレイングなどをするというようなことも紹介されていて、言語活動にも活用できるのではないかなと思いました。中にAEDの活用の方法や防災に関しての「地域安全マ

ップ」の作成などが掲載されているので、AEDの活用や防災についての意識も高揚されるのではないかと思います。

一方、大修館書店の教科書ですけれども、読んで理解できるように、非常に論理的、具体的に書いてあったり、また、大事な言葉は太字で書いてあったりというような工夫をされていると思いました。

小竹委員

私は大修館書店がよろしいかと思いました。図が鮮明で文書も見やすくレイアウトがよく、印刷も見やすいので全体的に見やすい印象です。1年生では保健体育は12時間、2年生では16時間、3年生では20時間と少ない時間数で消化しなくてはいけないのですが、そのわりには全体的なボリュームが、この消化するのには見合っているのかなと思いました。また、コンパクトな内容に詰めてありますけれども、疾病や予防、感染症については少ないページのわりにはよく説明されているという印象です。以上から大修館書店がよろしいかなと思いました。

関野委員長

私も保健体育は大修館書店がいいと思います。まず、巻頭に2020年の東京オリンピック・パラリンピックについて掲載されているのは、とてもインパクトがあるように感じました。先ほどからお話も出ていますけれども、各項目の見出しが非常に見やすく、わかりやすくなっています。例えば、たばこは「好奇心などから吸い始め、やめられなくなる」ですとか、「薬物は心や社会を壊す」など、文章の意味をとても端的に伝えられているなと思いました。また、防災の取り組みや広域避難所の標識の部分に、藤沢市の写真が掲載されていたのですが、これも子どもたちがとても身近に感じて興味を持てるのではないかと思います。

関野委員長

ご意見をいただきましたが、最終的に保健体育は大修館書店ということによろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議ありませんので、保健体育は大修館書店にいたします。

XX

関野委員長

続きまして、技術・家庭(技術分野)についてです。発行業者は3者、東京書籍、教育図書、開隆堂です。ご意見をお願いいたします。

阪井委員

技術の教科書ですけれども、技術の授業時数が非常に少ないと聞いております。1年生で70時間、2年生で70時間、3年生で35時間という非常に少ない時間の中で学んでいく教科であるということを考えますと、まず授業内でできなかつたことは、放課後、残って製作品を仕上げていくようなこともままあるのかなと推察いたします。その中において東京書籍の教科書は、道具の扱い方が非常に丁寧に紹介されていて、ポイントマークをつけたり、安全マークまた、衛生マークなどをつけて、安全に楽しく作

業が行えるような工夫がされていました。また、実際につくる前の製図法については、具体的に詳しく3つの製図法が書かれていたので、1人で自学自習するにもわかりやすいような扱いになっていたと思います。中でも情報ネットワークの危険性やそのトラブルについてのページは非常に充実しておりまして、情報モラルについての事例や解説があったり、情報のセキュリティや情報技術のプラス面とマイナス面ということで、それぞれの評価がしてあって、実際に安全に情報ネットワークを使っていくための対策を学習できるのはよいなと思いました。

小竹委員 私も阪井委員がおっしゃったように、東京書籍がよろしいのではないかと思います。A B版という大きい教科書ですので、図が大きく作業過程で見やすいこと、個人的に自分で仕事が残ったときに、それを仕上げなければいけないという状況のときに、その作業過程が見やすいこと、安全に作業を進めるための説明ページもあり、先ほど阪井委員がおっしゃった製図などの説明が見開きを使ってあるので、比較検討しやすい、見やすいということです。それから情報に関しても十分な説明がなされていると思います。情報というのはインターネットとかそういうものを含めてです。

井上委員 社会において子どもたちが自立的に生きる基礎を養うこと、そして技術を適切に評価して、活用できる能力と実践的な態度を育成するという観点から見て、東京書籍を推選したいと思います。

吉田委員 私も東京書籍がいいかと思います。東京書籍は「実習を楽しく安全に進めよう！」というのがあって、丁寧な導入がなされていること、それから自学可能なつくりになっていること、そして安全の配慮も行き届いていて、技術の扉を開けるのは新しい知識を知ってこそ対応できる、そういったスタンスから教科書がつけられているというふうに感じました。実践例が多くて、多岐にわたる分野がとても詳しく書かれていますし、技術の扉というようなところで、新しい知識を知って対応するということについても詳しく述べられているように思います。こういった教科書で学びながら、実習を通してものづくりの喜びも感じて、未来の夢をかなえるために技術を学ぶというような自覚ができたらいいなと思います。

関野委員長 私は開隆堂がいいと思いました。開隆堂の教科書は、サイズがB 5版なんです。全体的に今回の教科書は、他の教科も含めてA B版の大きな教科書が増えてきた中で、B 5版を改めて見ると、非常にコンパクトで、生徒たちにとっても扱いやすいのではないかと考えました。内容的に言いますと、「木材による製作」というところでは、工程ごとに詳しく機械の使い方とか手順が載っていて、とてもわかりやすいなと感じました。また、「参考」ですとか「豆知識」などの情報量も豊富で、読み応えのある内容にな

っていると感じました。また、情報モラルについても詳しく書かれていて、子どもたちには必要な情報が載っていて、とてもいいなと思いましたので、開隆堂がいいなと思いました。

関野委員長 皆さんのご意見を総合しますと、技術・家庭（技術分野）は東京書籍ということによろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議ありませんので、技術・家庭（技術分野）は東京書籍にいたします。

×××

関野委員長 続きまして、技術・家庭（家庭分野）についてです。発行業者は3者、東京書籍、教育図書、開隆堂です。ご意見をお願いいたします。

吉田委員 家庭科という教科は、人として生活していく上で総合的な学習の教科だと私は感じています。さまざまな状況を把握して生きるための知識を得て、それを生きる力に変えていく、そういった教科であると思います。1人でも生きていかれる力を身につけて、だからこそ共同して生きていくことが必要なんだ、そういう協調性を身につけてほしい教科であると思います。そういう点で見えていきますと、東京書籍については、各編が導入、学習目標、はじめの活動、まとめの活動という基本のページがしっかりしていること、学習のまとめということが非常にわかりやすい構成になっていて、学び方の流れがよくわかるような状況になっています。

それから調理実習の例示が大変わかりやすくて、調理による食品の科学的な変化やエコクッキング、弁当づくり、幼児食といったように興味・関心を引くものが大変多いように思いました。布を用いた作品も1つの作品に縛られることなく、難易度に応じて作品に取り組みめるようになっていることも基本の体得をすることで、どんどん新しいものにチャレンジできる、そういうところにつながっていくように思います。実習例が大変わかりやすく組まれていること、ポイントをしっかり押さえているために学習活動においても有効に学べること、そしてこの本を卒業してもずっと持っていたいな、そんなふうに思える教科書のように思います。

小竹委員 私も東京書籍はよくできた教科書だと思います。もう1つは開隆堂についてですが、どちらも食に関してとても丁寧な記載をされております。無理なダイエットというのは成長期のバランスを崩し、好ましくない結果を生むことが懸念されますが、思春期にさしかかった子どもが陥りやすいこともしばしばです。年を取れば骨粗しょう症などの疾病の原因にもなりますし、一方で過剰な摂取は肥満代謝異常を生じます。日本の食文化は伝統文化ですので、お雑煮1つでも地域によって違いがあり、食を通じた家族

のコミュニケーションツールにも広がります。その食についてはどちらも詳しく豊富なメニューを示して、興味をひきつけてくれるものでありました。

東京書籍はA B版と少し大きく見やすいです。開隆堂はB版の教科書です。先ほどの技術の教科書と逆のことになってしまうのですが、小さいので机に広げたときに余裕があるという座学向きなのかなと思いました。開隆堂は実寸大の食物の大きさを写真で示している見開きのページがあり、それが例えば 80 グラムだとこのくらいというような目安が一目でわかったので、そういうビジュアル的なインパクトのある表示から開隆堂がよろしいのかなと思いました。

井上委員 家庭分野におきましては、社会において子どもたちが自立的に生きる基礎を培うということが基本になるかと思えます。そういう意味におきまして、家族、家庭と子どもの成長、食生活と自立、社会の変化への対応というようなことから実践的、体験的活動と問題解決、学習活動の充実、そして実践的な態度を育む教育の充実という観点から見て、東京書籍を推選したいと思えます。

阪井委員 私も吉田委員がおっしゃったように、家庭科を学んでいくことは、よりよく生きることということにつながっていくことが好ましいことであり、それが目標でもあると思えます。その中において東京書籍の本は非常に本のサイズが大きいこともあり、見やすく、理解しやすくなっていると思えます。「考えてみよう」の課題にも身近なものがあったり、まとめの「生活に生かそう」というようなところを見て、実生活に結びつけていけるような、学んだことが即生きることに繋がっていくということが伝わりやすい工夫がされているなと思えました。各領域に「プロに聞く！」というようなコーナーもあり、職業観やそういうような意識も高めることができるのではないかと思えました。先ほどの技術の教科書と同じように、安全に楽しく作業が行えるように安全マーク、衛生マークが付き、注意することを喚起するような記述になっているのもよいと思えました。

関野委員長 私は家庭につきましては、東京書籍がよいと思えました。東京書籍の教科書は、家庭科の大きなテーマであります「自立と共生」について、わかりやすくガイダンスに記載されているなと感じました。中学校の間に身につけて、大人としての生活を送る準備をするのに必要なことが、各項目にわかりやすく記されていると思えました。また、「家庭生活と地域との関わりを考えよう」というページでは、実習例として「地域でできることを考えよう」という題目で、子どもたちが自分の育ったまちを大切にすることを育めるのではないかというふうに感じました。調理の実習例や参考例も

とてもたくさん掲載されていて、楽しみながら料理に取り組めるのではというふうに感じました。吉田委員もおっしゃっていましたが、大人になっても、これさえあればレシピ本は要らないかもしれないと思いました。東京書籍がいいと思います。

関野委員長 ご意見をいただきましたが、技術・家庭（家庭分野）は東京書籍でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議ありませんので、「技術・家庭（家庭分野）」は東京書籍といたします。

×××

関野委員長 続きまして、英語についてです。発行業者は6者、東京書籍、開隆堂、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版です。ご意見をお願いいたします。

小竹委員 私は三省堂の NEW CROWN がよろしいと思いました。3年間の言葉の数は1,146と、特に突出して多くはないのですが、文章がシンプルで短いセンテンスであること、理解しやすいことが継続の重要な要素だと思います。読むこと、書くこと、自己表現活動もあり、構成もよろしいと思いました。巻末の単語の紹介に使い方のバリエーションが豊富に紹介されており、自宅学習、自習や会話にとっても役に立つと思いました。本のレイアウト、印刷、文字の大きさも見やすく、学習しやすいと思ったのが理由です。

吉田委員 中学校の学習指導要領の中では、英語は外国語学習を通じて言語や文化に関し、理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーションの基礎を養うとあります。コミュニケーションの基礎を養うというものの英語で話したいとか、英語を自由に使いたいというのは、子どもたちのみならず我々も感じているところであります。そういう点で考えると、子どもたちが少しでも英語に慣れて、コミュニケーションを取りたい、英語を使ってみたいと思えるような教科書を選びたいというふうに思います。

まず、学校図書の TOTAL ですけれども、これは教室でよく使う英語から入って、こんなときにはこう言おうという基本パターンが示されています。自己紹介、あいさつなど一つひとつ丁寧に扱っていると感じました。間違いなくどの子も同じところに行きつくことができるのではないかと思います。

次に、東京書籍の NEW HORIZON ですけれども、こちらは出会いをテーマとして「Unit 0、始めまして」から場面別のコミュニケーションに

移り、テーマ別の自己表現へと学習が進んでいく構成になっていました。さらに「Let's Read」では学び方コーナーもあり、学んだ内容をいかに活用するか、実際に使える英語を学べるようになる、そういった視点が網羅されているように感じました。

三省堂の NEW CROWN、いま小竹委員もおっしゃいましたが、こちらの教科書については、扉から「学習の見通しを立てよう」というふうにあります、基礎、基本を修得しよう、文字の仕組みの練習、題材の背景、知識、文脈の中での活用練習、「Word Bank」というように学ぶうちにレベルが上がって、生徒みずから達成感が得られるような構成になっているところがよいと思いました。また、1年生の導入部分で教師が生徒の実態に応じて説明が考えられるような教材になっていて、非常に多様な学びができて、それぞれの生徒の力に応じて達成感を与えることができるようなつくりになっているというふうに感じました。「学ぶこと」というのがしっかり明示されていて、右ページ、左ページのつくりには一定の法則があって、大変学びやすいと感じました。読み物にしてもとても工夫があって、アリスの話、ピーターラビット、錦織圭の自伝など、生徒がとてもよく知る内容が含まれていることや、日本のガイドといった内容まで幅広く、英語に興味をわくようになっていくと思います。どの教科書もそれぞれ特色がありますが、幅の広さ、それぞれの力に応じた対応ができるという先生の教える側の立場の教科書として三省堂の NEW CROWN がよいかと思います。

阪井委員

私は三省堂の NEW CROWN が使いやすいのではないかと思います。内容はわりとわかりやすい平易なものがあるのですが、文章が非常に短くて暗記しやすい文章が多いなと思いました。文章が短いということは、本を見ずにも自分で表現する能力が身につくのではないかと考えられます。また、巻末にいろいろな単語の意味があり、短いセンテンスの中にその言葉を入れ替えることによって、自己表現の活動やコミュニケーションをすることに活用ができるのではないかと思います。非常にまとめもわかりやすく、特に巻末の付録が充実しているというような観点から、この NEW CROWN が使いやすいのではないかと思います、採択したいと思います。

井上委員

私は東京書籍を推したいと思います。学ぶにつれて興味を引き出せる内容であるということと、4技能のバランスが取れて、言葉を学ぶ上で最も大切なコミュニケーション能力の育成が図られるという観点からでございます。そして藤沢の子どもにとって、飽きずに練習ができるのではないかなという点も推したいと思います。以上により東京書籍を推したいと思

います。

関野委員長

私は三省堂がいいと思いました。全体的な流れが巻頭に記されていて、「GET」で基礎・基本を、「USE」で基礎の活用という流れは、何をするのが明確になっていて、とても扱いやすいのではないかと思います。全体的にいたずらに派手さもなく、落ち着いた色調でイラストやキャラクターも教科書らしく、とても好感の持てるものだと思います。また、阪井委員もおっしゃっていましたが、巻末付録の基本本文のまとめと、「いろいろな単語」というページも非常に見やすくまとめられていて、復習などをするときにとっても役に立つのではないかと思います、三省堂がいいなと思いました。

関野委員長

それでは、ご意見をいただきましたけれども、最終的に英語は三省堂でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議ありませんので、英語は三省堂にいたします。

×××

関野委員長

これで 15 種目すべての教科用図書について決定いたしました。

議案第 12 号 平成 28 年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採択については、ただいま決定いたしましたように、国語は光村図書出版、書写は光村図書出版、社会（地理的分野）は帝国書院、社会（歴史的分野）は育鵬社、社会（公民的分野）は育鵬社、地図は帝国書院、数学は教育出版、理科は大日本図書、音楽（一般）は教育芸術社、音楽（器楽合奏）は教育芸術社、美術は日本文教出版、保健体育は大修館書店、技術・家庭（技術分野）は東京書籍、技術・家庭（家庭分野）は東京書籍、英語は三省堂を採択するという事によろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、議案第 12 号 平成 28 年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採択については、ただいま申し上げた 15 種目の教科用図書を採択いたします。

÷÷

関野委員長

次に、議案第 13 号 平成 28 年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の採択についてを上程いたします。事務局の説明をお願いいたします。

小木曾教育部参事

議案第 13 号 平成 28 年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の採択について、ご説明いたします。この議案を提出いたしましたのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条第 6 号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関

する法律第14条及び同法施行令第15条第1項並びに学校教育法附則第9条の規定により、採択する必要によるものです。無償措置の対象となる特別支援学校における小中学部及び小学校若しくは中学校の特別支援学級にあつては、小中学校用教科用図書、特別支援学校用教科書目録に記載されている教科書、学校教育法附則第9条の規定による一般図書が給付の対象となります。また、無償措置の対象外の高等部においても、この附則第9条の規定による一般図書と高等学校用教科用目録に記載されている教科書を使用することになります。

学校教育法附則第9条の規定による一般図書につきましては、文部科学省初等中等教育局教科書課長通知を参考にして、児童生徒の障がいの種類、程度、能力、特性に最もふさわしい内容であることや、系統的に編集されていること、使用上、適切な体裁であること、高額過ぎない価格であることなどの事項を留意して採択すること、並びに採択した図書が、完全に供給される見込みがあることなどに留意して審議することとしております。

以上の点を踏まえ、第3回藤沢市教科用図書採択審議委員会におきまして、審議がなされました。教科用図書採択審議委員会から答申された内容につきましては、先ほど説明いたしました平成28年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果について（答申）とあるものでございますので、よろしく願いいたします。

それでは、議案書を読み上げます。（議案書朗読）

関野委員長

事務局の説明が終わりました。ご意見・ご質問はありますか。

特にないようですので、協議に入ります。

協議方法についてですが、答申にもありましたが、特別支援学校や特別支援学級で使われる教科書は、児童生徒の発達段階を踏まえて幅広く選ぶことが必要であると考えます。審議委員会でも、一人ひとりの児童生徒にふさわしい教科書として挙げられてきた、という意見がありました。そこで、ここでの協議は、平成28年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめの中から「新」と書かれた、今回新たに希望があった図書18冊と、「新□」印の書かれた、今回新たに希望が複数の種目であった図書1冊と、「□」印の書かれた複数の種目で希望があった図書6冊について、総括的にご意見をいただくという形で進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、「新」そして「新□」、そして「□」印のある種目、No.1 国語・書写、No.2 算数・数学、No.3 生活・地図・社会、No.4 生活・理科、No.5 音楽・器楽、No.6 図工・美術、No.7 家庭・職業家庭、No.8 体育・保健体育、

No.9 英語、についてご意見をお願いいたします。

吉田委員

特別支援学級及び特別支援学校の先生方におかれましては、日々、一人ひとりの児童生徒に対して温かな愛情を持って指導と支援にあたっていると思っています。その先生方が一人ひとりの児童生徒に寄り添う中で、よりよい成長を願って選ばれた教科書については、すべて採択したいと考えます。今後も児童生徒のよりよい成長を願って、附則9条の一般図書を選ぶ際に、義務教育9年間の育ちを考慮し、切れ目のない教育活動が行われ、一人ひとりが自立できるように、より系統性を持った教科書を選んでくださることを希望して、今回提出された一般図書はすべて採択したいと考えます。

阪井委員

特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級で使われる教科書につきましては、吉田委員がおっしゃったように、それぞれのお子さんの成長の度合いに合わせ、先生たちが最善を持って選ばれたものであるということから、私も採択していきたいと思えます。また、この中に金額の高くなる教科書もありますけれども、これも文部科学省がつくっている☆印本の教科書と大差ない金額であるので、これもあわせて採択していきたいと思えます。

小竹委員

私も今、吉田委員、阪井委員がおっしゃられたように、すべての教科書の採択をしていきたいと思っております。

井上委員

私も同じく全部採択をしていきたいと思えます。

関野委員長

私も皆さんと同じように、すべての教科用図書の採択をしたいと思っております。実際に子どもたちと向き合っている先生方が、一つひとつ、一人ひとりのことを考えて選ばれた教科書だと思っておりますので、先生方を全面的に信頼してすべての教科書を採択したいと思えます。

関野委員長

それでは、いろいろご意見をいただきましたけれども、新規図書複数種目、希望図書を含めて採択することにしたいと思えますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、議案第13号 平成28年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書については、ただいまの協議のとおり、平成28年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級教科用図書の審議結果にあります、すべての図書を教科書として採択いたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

関野委員長

次に、議案第14号 平成28年度使用藤沢市立小学校用教科用図書の採択についてを上程いたします。事務局の説明をお願いいたします。

小木曾教育部参事 議案第 14 号 平成 28 年度使用藤沢市立小学校用教科用図書の採択について、ご説明いたします。

この議案を提出しましたのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条第 6 号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条及び同法施行令第 15 条第 1 項の規定により、小学校用教科用図書については、平成 26 年度採択のものと同一のものを採択する必要によるものです。採択する小学校用教科用図書は記載のとおりでございます。

それでは、議案書を読み上げます。(議案書朗読)

関野委員長 事務局の説明が終わりました。法令により義務教育教科用図書は、採択替えを行った時点より、4 年間は同じ発行者のものを採択することになっております。したがって、平成 28 年度に使用する小学校用教科用図書は、平成 26 年度採択のものと同一のものを採択することになります。

それでは、平成 28 年度使用小学校用教科用図書の採択について、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

特にないようですので、平成 28 年度使用小学校用教科用図書の採択については、平成 26 年度採択と同一のものを採択することに決定いたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

関野委員長 以上で、本日予定いたしました審議に関する案件は、すべて終了いたしました。

委員の方で前回の定例会から今日までの間で報告事項のある方はいらっしゃいますか。

関野委員長 それでは、次回の会議の期日を決めたいと思います。8 月 19 日(水)午後 3 時から、傍聴者の定員は 20 名、場所は森谷産業旭ビル 4 階 第 1 会議室において開催ということでいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

関野委員長 それでは、次回の定例会は 8 月 19 日(水)午後 3 時から、傍聴者の定員は 20 名、場所は森谷産業旭ビル 4 階 第 1 会議室において開催いたします。

以上で、本日の審議の日程はすべて終了いたしました。

午後 4 時 24 分 閉会